

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
認知症対策部会
平成28年度活動報告書

平成29(2017)年3月

生 駒 市

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 認知症対策部会

1	はじめに	1
2	認知症対策部会の役割	2
3	認知症対策部会の開催	2
4	認知症施策	3
5	認知症対策等に関する課題等	4
6	平成 28 年度の具体的な取組	6
7	認知症対策部会のまとめ	10
8	平成 29 年度の計画（案）	12

1 はじめに

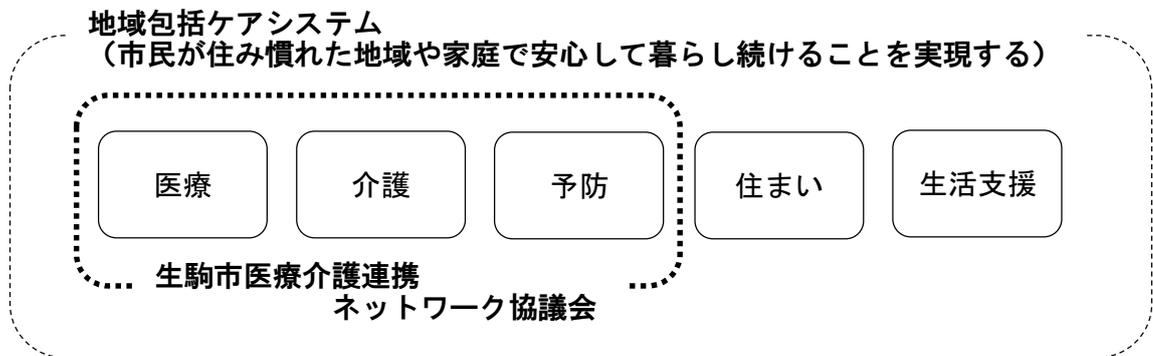
団塊の世代が75歳以上となる平成37(2025)年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの整備が求められている。

医療と介護の連携推進においては、基盤となる保険制度や報酬体系が異なることから、こうした職種間や制度上の壁を越えて、市民のQOL向上を共通の目的として、関係性を構築することが不可欠である。

そこで生駒市では、医療、介護、予防の分野に係る、医療介護サービス提供体制の構築について協議するために、平成28年3月に「生駒市医療介護連携ネットワーク協議会」を立ち上げ、同年6月に第1回会議を開催するとともに、在宅医療介護連携の方針を検討する「在宅医療介護推進部会」と認知症対策についての方針を検討する「認知症対策部会」を設置し、現状と課題、目指すべき姿、具体的な取組について協議、検討を進めてきた。

今回、平成28年度の認知症対策部会の協議、検討の内容について、この「生駒市医療介護連携ネットワーク協議会認知症対策部会平成28年度活動報告書」としてとりまとめた。

今後も引き続き、医療と介護の相互理解や情報共有により、生駒市全体で顔の見える関係づくりを進めるとともに、患者・利用者が真に必要なサービスを有機的に利用できる体制の構築を目指すものである。



2 認知症対策部会の役割

認知症対策部会においては、下記①～⑤の内容について、部会員より意見や助言を求めるものである。

- ①認知症の普及啓発に関する事項
- ②認知症予防に関する事項
- ③認知症ケアの向上に関する事項
- ④多職種連携に関する事項
- ⑤生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

3 認知症対策部会の開催

開催年月日	会議の内容
【第1回】 平成28年6月21日	①部会長選出・副部会長指名 ②認知症対策部会の設置及び運営について ③認知症初期集中支援事業について ④生駒市の認知症施策の現状について ⑤認知症対策部会での協議事項及び今後のスケジュールについて
【第2回】 平成28年8月5日	①認知症対策の取組方針について ②認知症ケアパスの方向性について ③認知症に関する研修企画について
【第3回】 平成28年11月4日	①認知症ケアパスについて ②認知症チェックシートについて ③認知症に関する研修企画について
【第4回】 平成29年2月17日	①認知症初期集中支援事業の活動報告について ②認知症対策部会平成28年度活動報告書について ③認知症対策部会平成29年度の計画について

4 認知症施策

(生駒市の認知症施策の現状)

・ 認知症高齢者の推計について

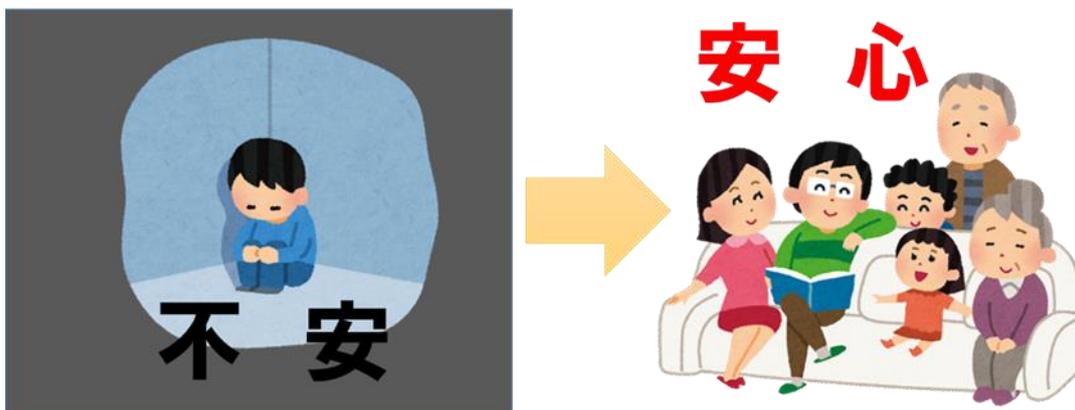
2025年には介護認定者が現在の約2倍の8千人強となり、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者も現在の約2倍の4千人強となる見込みである。

・ 生駒市の認知症施策についての取組を紹介

- 認知症に関する普及啓発
- 認知症予防への取組
- 認知症の早期発見・早期受診・早期治療
- 重度化予防への取組
- 認知症本人・家族への支援
- 認知症の方の安心や安全の確保
- 権利擁護に関する取組

・ 認知症地域支援推進員を配置 (H27～)

認知症カフェの運営、認知症サポーター養成講座の実施、当事者・家族からの相談、居宅介護支援事業所や包括からの相談等を担当



5 認知症対策等に関する課題等

認知症対策等に関する課題等について、各委員から課題を提出してもらい、今後の目指すべき状態と取り組むべき方向性について意見をとりまとめた。

【認知症対策等に関する課題等】

①認知症医療について

課 題	目指すべき状態	取 組
専門医が少ない 認知症に関与する医師がまだまだ少ないように感じる。	初期対応のできる医師が身近にいる。	かかりつけ医の対応力向上研修の受講者を増やす。
行動異常のある患者を受け入れる施設が少なく、すぐに受け入れられない状況にある。	病院内においてBPSD等の対応に熟知したスタッフが育っている状態になる。	多職種連携でBPSD等の対応を学ぶ機会を設ける。
歯科の場合、認知症患者に対して関心が少ない方である。	どの歯科医においても認知症患者に対応できるようになる。	専門職用の認知症ケアパスを作成する。

②認知症ケアについて

課 題	目指すべき状態	取 組
慢性疾患で介護保険利用を始めた後に発症することも多く、ケアマネの認知症に対する理解の促進がなお必要である。	認知症患者の対応に熟知したスタッフが育っている。(再掲)	多職種連携でBPSD等への対応を学ぶ機会を設ける。(再掲)
認知症の方や家族が利用できるサービスの把握が十分にできていない。	介護の詳しい情報提供のできる人が専門職以外にも生活圏域に存在する。 一般市民、専門職対応用の認知症ケアパスがあり、各病院や相談機関においても配布ができるようになっている。	専門職用の認知症ケアパスを作成する。(再掲) 認知症対応施設の見学企画 (グループホーム、精神科病棟等)
予防、早期相談、早期診断、早期治療がスムーズに連携できていない現状がまだある。	関係機関、多職種が連携し、予防・早期発見・早期支援体制が強化されている	認知症初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発を行う。

③認知症の正しい理解について

課 題	目指すべき状態	取 組
成年後見制度の利用方法など、啓発的な講演会や広報等がまだ不足している。	認知症サポーター養成講座等を大半の市民が受講し、認知症の理解が深まっている。	認知症サポーター養成講座の積極的展開（小中学校・店舗等）
認知症の方や家族が相談できる窓口の認知度がまだまだ低い。	気軽に相談できる窓口の周知が徹底され、早期に利用ができるようになっている。	認知症ケアパスを作成し、広く市民に配布する。
市民が認知症のことを身近なこと、自分事としてまだとらえきれない人がいる。	認知症のことを身近なこと、自分事として理解する市民が増えている。	一般市民向け認知症フォーラムを開催する。

④認知症高齢者を取り巻く環境について

課 題	目指すべき状態	取 組
認知症の理解がまだまだ地域に浸透していないと感じる。	近隣住民が認知症を理解し、わずかな変化にも関心を持ち、声をかけられる、また適切な相談機関につなげられるようになっている。	認知症ケアパスを作成し、広く配布する。（再掲） 認知症サポーター養成講座の積極的展開（再掲） 認知症対応者養成講座の実施（支え隊）
認知症とその家族が利用できるサービスの把握ができていない。		
世間体を気にして、認知症であることを地域に表面化することが困難である。	早期に発見し、治療が開始できるよう、認知症に手を差し伸べていく地域コミュニティができている。	コミュニティカフェや認知症カフェの増設
認知症患者に対応する社会的資源が不足している。	状態像に応じた社会資源が整っている。	認知症高齢者のニーズ把握を行い、必要な資源を整理する。

6 平成 28 年度の具体的な取組

(1) 認知症の普及啓発に関する事項

○認知症フォーラムの開催

国内や海外で先進的な取組をしているパネリストをお招きし、認知症の方にやさしいまちづくりを今後どのように進めていくかについて考える機会とするために開催。

認知症フォーラム in 生駒 ～生駒市にとって「認知症にやさしいまち」とは～

日時：平成 28 年 9 月 12 日(月) 午後 4 時～5 時 30 分

場所：生駒市コミュニティセンター 文化ホール

内容：第 1 部 講演：「生駒市の認知症施策について」 生駒市長

第 2 部 パネルディスカッション

生駒市にとって「認知症にやさしいまち」とは
コーディネーター 小川 敬之氏

(九州保健福祉大学作業療法学科教授)

パネリスト Marc Wortmann 氏

(国際アルツハイマー病協会事務局長)

茅野 龍馬氏 (WHO健康開発総合研究センター)

梅本 政隆氏 (大牟田市保健福祉部長寿社会推進課)

田中 明美 (生駒市福祉健康部地域包括ケア推進室長)

入場者数：271 名



○認知症ケアパスの作成

【認知症ケアパスとは】

認知症と疑われる症状が発生した時、認知症の人やその家族が、いつ、どこで、どのような支援が受けられるのか、また生活の工夫や対応方法もわかるように認知症の状態から重度に至るまでの標準的な流れを示すガイドブック。



【認知症対策部会における認知症ケアパスの方向性】

- ・ BPSD での相談先、対処の方法
- ・ 相談窓口の連絡先、認知症が気になった時のチェックリスト
- ・ 老化による物忘れと認知症による物忘れの違いについて
- ・ 生活の工夫、家族の対応方法
- ・ 市の事業や支援体制（利用できるサービス）

○RUN TOMO-RROW（ラン伴）ゴールイベントの開催

認知症の人や家族・支援者等が、タスキをつなぎながら、北海道から沖縄まで全国を縦断するプロジェクト。市役所駐車場で関西ブロックのゴールイベントを実施した。また、イベント開催に向け、市民・介護事業者・医師等とともに1,000本の啓発うちわを作成した。

日時：平成28年10月2日（日） 午後3時～5時30分

場所：生駒市役所駐車場



○「広報いこまち」による啓発

平成28年10月15日発行の「広報いこまち」において、特集記事「認知症と生きる」を掲載した。山上部会長のインタビュー記事も掲載。



(2) 認知症ケアの向上に関する事項～認知症に関する相談・支援の充実

認知症ケアパスの作成（再掲）

(3) 多職種連携に関する事項～認知症に関する質の向上～

○認知症に関する多職種連携研修会の開催

医療分野、介護分野、それぞれの専門分野ごとに、BPSDを有している認知症高齢者に対し、何ができるのか？また、それぞれの専門機関がつながり、支援を強化することにより、住み慣れた地域で暮らし続けることができることへの理解を深めるために開催。

日時：平成29年2月19日(日) 午前10時～12時

場所：生駒市役所 4階 大会議室

内容：講演

認知症のBPSDを地域で支える～包括的視点での多職種の関わり方～

小川 敬之氏（九州保健福祉大学作業療法学科 教授）

事例検討

グループワーク

各グループからの発表

講師講評

参加者数：55人



(4) 生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現を図るため、介護保険法（平成9年法律第123号）第115条の45第2項第6号に規定する事業として、平成28年6月から「認知症初期集中支援チーム」を設置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。



(対象者)

40歳以上で、在宅で生活をしており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で、以下のア、イのいずれかの基準に該当する人

ア 医療サービス、介護サービスを受けていない人、又は中断している者で以下のいずれかに該当する人

- ・ 認知症疾患の臨床診断を受けていない
- ・ 継続的な医療サービスを受けていない
- ・ 適切な介護サービスに結びついていない
- ・ 診断されたが介護サービスが中断している

イ 医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している人

生駒市においては、1チームを設置し、スタッフはやまと精神医療センターの精神保健福祉士と高齢施策課・地域包括ケア推進室の保健師が4名の合計5名でのチーム員構成。

チーム員会議には、認知症サポート医でもあり、老年精神医学を専門としているやまと精神医療センターの院長が医療的側面からのアドバイスを実施。

(認知症対策部会が担う役割について)

認知症初期集中支援チームの実績を踏まえ、適切に事業が運営されていたかの評価等を実施する役割を認知症対策部会が担っていく（意見の詳細については会議録を参照）。

平成28年度は4事例に対し認知症初期集中支援チームが関与。①医療につないだケース2件、②他疾患の発見につながったケース1件、③総合事業等、社会との関わりを増す支援1件。訪問は14回、チーム員会議は計8回開催した。

7 認知症対策部会のまとめ

【ふりかえり（委員の言葉）】

- 多くの貴重なご意見をいただくことができた。県の代表として保健所から来ていただいているのはありがたい。市と県、行政の考え方を聞かせていただくと今後の方針に役立つ。今後ともよろしく願いしたい。
- 歯科医師として認知症の方と関わることは少ないが、認知症に対する知識があれば関わり方が全然違うと思う。今後とも勉強させていただきたい。
- 以前は相談があればケアマネジャーが始めから関わっていかなければいけないことがあったが、初期集中支援チームが進んでいくと、ケアマネジャーが関わる時点で、支援チームによって関係ができていくということが増え、やりやすくなっていくと思う。非常にありがたい。
ケアマネジャーは元の職種が様々であり、どうしても偏りがあったりする。個人的にもケアプランを作る上で弱い部分もあるが、部会での経験をもとに広がりを持たせることができると感謝している。
- 事務局にも感謝。フォーラムにしても、認知症安心ガイドにしても、生駒ってすごいなと改めて思った。
- 薬剤師という立場で出席。認知症の方との接点は今のところ少ないが、認知症安心ガイドもでき、皆さんと一緒により一層関わっていきたいと思う。
- 病院で認知症の方と関わっているが、家に帰られて後のことはわからない。もっと早く発見できれば、もっと良い方向にいったらというケースもある。
部会での経験により、今後説明等をする際に、困った場合の窓口等つなぎを持たせることができるようになったと思う。
- 生駒市は認知症施策をオレンジプランの柱に沿って体系的になされ、方針を関係者で共有、実践されていることを会議の中で教えていただいている。他市町村に助言等をする際には生駒市の取組を広げていきたいと考えている。
県としてもどの先生にも認知症の対応を進めていただきたいということで、かかりつけ医の研修等を企画している。今後とも多くの先生に受講していただきたいと考えている。
- 認知症の方を取り巻く状況の変化を感じることができた。
やはりチームで関わっていく必要がある。チームといっても行政だけ、事業所だけでなく、様々なところを巻き込まないと、最終的に困ることになるのは市民であることを共通認識できる機会になったと考えている。

【認知症対策部会 委員名簿】

氏名	役職等	関係機関名
山上 正仁	一般社団法人生駒市医師会 副会長	生駒市医師会
川田 和弘	医療法人社団松下会白庭病院 副院長	生駒市内病院
徐 典代	医療法人和幸会阪奈中央病院 リハビリ科 作業療法士主任	生駒市内病院
中溝 辰男	生駒市歯科医師会 会長	生駒市歯科医師会
茨木 康晴	薬師堂生駒薬局 開設者	生駒地区薬剤師会
喜多 昭子	一般財団法人生駒メディカルセンター 訪問看護ステーション主任	訪問看護ステーション
湯川 美香	株式会社ライフケア創合研究所 いこいの家ケアプランセンター 管理者	居宅介護支援事業所
橋本 和子	奈良県郡山保健所長	郡山保健所
近藤 桂子	生駒市福祉健康部健康課長	生駒市

